別紙４

● 世界の主な火山活動

平成 22 年（2010 年）10 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

メラピ（インドネシア）（図中Ａ）

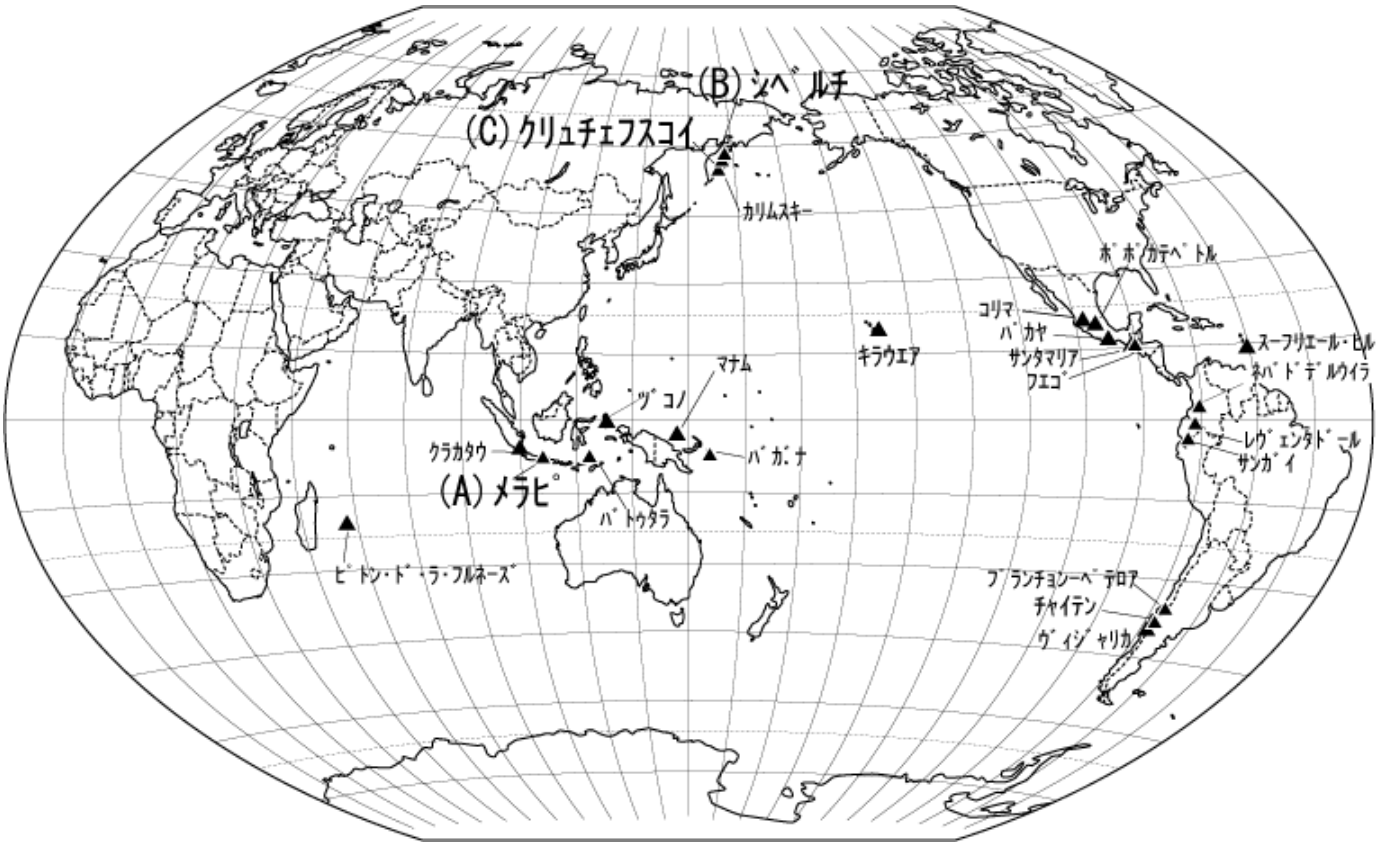
10 月 21 日から 24 日にかけて溶岩ドームの成長の加速がみられ、半径 10km 以内にあるいくつかの集落（11,000-19,000 人と推定）に避難勧告が出された。

26 日 17 時頃には噴火が始まり、西南西側と南東側へ火砕流が発生した。火砕流の継続時間は、長いものは 30 分以上にも及び、火山灰が火口縁上 1500ｍまで上がるのが観測された。

シベルチ、クリュチェフスコイ（カムチャッカ、ロシア）（図中Ｂ，Ｃ）

10 月 27 日にシベルチの地震活動が増加し始め、翌 28 日に強い爆発的噴火を示す火山性微動が観測された。火山灰は 12km の高さまで上がり、東へと流れた。

また、ストロンボリ式噴火活動が継続しているクリュチェフスコイでも、23 日から 29 日にかけて爆発的な噴火が発生し、火山灰も８～９ｋｍの高さまで上がった。

シベルチとクリュチェフスコイからの火山灰により、航空便の迂回などがあった

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）